

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 104

2016年8月23日発行 【毎月第3火曜日】※今月は第4火曜日となります

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、工学部 機械工学科の居波 渉 先生です。

1. 「イノベーション・ジャパン2016」に出展します

大学や公的機関等から創出された研究成果の社会還元、技術移転を促進すること及び、実用化に向けた産学連携のマッチング支援を実施することを目的としてJSTが主催する、「イノベーション・ジャパン2016」に本学から4名の研究者が出展いたします。

ブース番号等会場レイアウトについては決まり次第、当機構のHPでご案内いたしますので、改めて当機構のHPにてご確認をお願いいたします。皆様のブースへのご来場をお待ちしております。

【日 時】2016年8月25日（木）9：30～17：30
2016年8月26日（金）10：00～17：00

【会 場】東京ビッグサイト（東京国際展示場）
西展示棟 西2ホール

【静岡大学の出展内容】

- 「食物や人体が対象のハンディ型非接触非破壊硬さ測定器」
出展者：学術院工学領域 電気電子工学系列 教授 犬塚 博
- 「レーダを使った非接触心拍・呼吸モニタ」
出展者：学術院工学領域 電気電子工学系列 教授 桑原 義彦
- 「液晶表示装置を用いて情報伝達を行う可視光通信システム」
出展者：学術院工学領域 電気電子工学系列 准教授 和田 忠浩
- 「情報モラル・情報セキュリティの効果的な指導方法に関する研究」
出展者：教育学部 発達教育学専攻 准教授 塩田 真吾
(当日は、酒井 郷平 学術研究員が対応)

【入場料】 無料

【静岡大学の問合せ先】 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
TEL 053-478-1718
E-mail [invjp11\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:invjp11[at]cjr.shizuoka.ac.jp)

2. 「静岡大学・読売新聞連続市民講座2016」のご案内

静岡大学創立60周年を機に始まった「静岡大学・読売新聞連続市民講座」も2016年度で8
ページ(1)

年目となり、
毎年多くの皆様にご参加いただいています。

「地球市民・未来創生塾～現代日本に生き、考えるための5つの視点～」＜全5回＞

地球規模で考え、地域に根ざして行動する——現代社会に生きる我々が、未来志向でよりよく
生きようとする際、グローバルな視点が重要になります。
2016年度の静岡大学・読売新聞連続市民講座は、グローバルな視点をさらに展開し、宇宙
から地球、
世界から日本、静岡にいたる多様な5つの講座を提供します。

【開催日】 時間はいずれも14:00～16:00

- ・ 第3回：9月3日（土）
「近代世界の地域紛争～その背景と処方箋～」
（講師）大野 旭＝楊 海英（静岡大学人文社会科学部教授）
- ・ 第4回：10月1日（土）
「日本における異文化交流の一側面～静岡とフランス～」
（講師）今野喜和人（静岡大学人文社会科学部教授・学部長）
- ・ 第5回：11月5日（土）
「静岡という地域～その課題と可能性～」
（講師）太田隆之（静岡大学地域創造学環准教授）

【定員】 各回250人

【参加費】 無料

【会場】 あざれあ（静岡県男女共同参画センター）6F大ホール

【申込方法】 氏名（ふりがな）、住所、年齢、電話番号、参加される回を明記して
FAX・メール・葉書のいずれかによりお申し込みください。

【申込先】 FAX : 054-252-0310

メール : shizuoka[at]yomiuri.com

葉書 : 〒420-0853 静岡市葵区追手町9-22 読売ビル3F 読売新聞静岡支局

静大市民講座係 宛

【問合せ】

（内容に関すること）静岡大学イノベーション社会連携推進機構 地域連携生涯学習部門

TEL:054-238-4817 メール: LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp

（受付に関すること）読売新聞静岡支局 静大市民講座係

TEL: 054-252-0171 メール: shizuoka[at]yomiuri.com

【主催】 静岡大学、読売新聞東京本社静岡支局

【詳細】 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event002492.html>

3. 「グリーンサイエンスカフェ」のご案内

しずだい産学連携メールマガジンVol104

平成25年4月に発足した「グリーン科学技術研究所」の教員が、研究者の夢や失敗談、ときには笑いを交えて個々の研究を紹介します。コーヒーを片手に、科学の話題に耳を傾けてみませんか？

次回は、9月16日（金）開催です。（前期最終回です。）

【開催日】9月16日（金）

（1）17:00～ （2）19:00～（同様の講話を2回行います）

【講師】齋藤隆之 教授（グリーンエネルギー研究部門）

「力学（ $f=ma$ ）と生物、光 -光ファイバーが地球を救う！-

（概要）

地球表面を構成する水、空気、岩石と光から私たちの環境を眺めるとともに、地球温暖化を抑制する対策技術と流体、光計測とを話題として、光ファイバーを使った簡単な実験を紹介します。

【会場】B-nest 静岡市産学交流センター ペガサート6階 プレゼンテーションルーム

【受講料】無料

【定員】100人（先着順）※事前申込不要

【問合せ】メールにてお問合せください。kondo.mitsuru [at] shizuoka. ac. jp

【詳細】<http://www.green.shizuoka.ac.jp/topic00027.html>

※終了回

【第1回】4月15日（金）

「カイコは天から下った害虫？～カイコはタンパク質を自由自在に作る最先端バイオテクノロジー工場～」

（講師）朴 龍洙 教授

【第2回】5月20日（金）

「私たちの生活に役立っている！～クラスター分子の構造と機能～」

（講師）加藤知香 准教授

【第3回】6月17日（金）

「キノコが農業を変える？～フェアリーリング（妖精の輪）を作るキノコから得られた物質で作物増産～」

（講師）河岸洋和 教授

【第4回】7月15日（金）

「静岡県から発信する環境調和型ものづくり～生分解性ポリ乳酸やマイクロナノバブルについて～」

（講師）間瀬暢之 教授

【第5回】8月19日（金）

「植物のストレス事情」

（講師）原 正和 教授

4. 「静岡大学・中日新聞連携講座2016『浜松の過去・現在・未来』」のご案内

今年度の静岡大学・中日新聞連携講座は、大河ドラマのテーマとなる井伊直虎の実像、平成の大合併にともなう浜松のまちづくりの課題と展望、様々なイノベーション（技術革新・社会変革）の展開など、多様な切り口から浜松という地に焦点を当てる全5回です。

しずだい産学連携メールマガジンVol104

静岡大学が誇る講師陣が、遠江の時代からものづくりの最先端都市まで、浜松の過去・現在・未来を展望します。

【日時】 9/13 10/11 11/8 12/13 1/17 (火曜日18:00~19:30)
【会場】 静岡大学浜松キャンパス 附属図書館浜松分館 (S-Port) 3階大会議室

【定員】 100人 (申込先着順)
【参加費】 無料

【申込方法】 氏名 (ふりがな)、住所、年齢、電話番号、講座名、参加される回を明記して

FAX・メール・葉書のいずれかによりお申し込みください。

【申込先】 FAX : 054-252-0310

メール : LLC*ipc.shizuoka.ac.jp (*を@に変えてください)

葉書 : 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学イノベーション社会連

携推進機構 連携講座係

【第1回】9月13日 (火)

「井伊直虎と遠江」

(講師) 小和田 哲男 (静岡大学名誉教授)

(概要)

井伊氏というと、「徳川四天王」の一人に数えられる井伊直政、幕末の大老井伊直弼の名前をあげる人が多いと思います。

戦国時代、今川氏の家臣だった井伊氏が滅亡の危機に陥ったとき、「女城主」として家を守ったのが井伊直虎でした。

彼女の実像に迫ります。

【第2回】10月11日 (火)

「浜松の現在と未来 平成の大合併とまちづくり」

(講師) 西原 純 (情報学部情報社会学科・教授)

(概要)

21世紀の日本を激しい人口の減少・高齢化が襲っています。浜松市もその例外ではありません。

浜松市は合併によって、全国第2位の面積の都市となりましたが、合併の影響はそこかしこに現れています。

合併の影響を精査しながら、浜松市のネクスト・ソサエティを考えます。

【第3回】11月8日 (火)

「浜松から宇宙へ 超小型衛星STARSとは？」

(講師) 能見 公博 (大学院総合科学技術研究科・教授)

(概要)

2014年から静岡大学浜松キャンパスで、人工衛星の開発がスタートしました。

世界的にメカ衛星として独創的であり、そして最先端ミッションを行っていきます。

そして今年度、静岡初の衛星STARS-Cが宇宙ステーションから宇宙に放出されます。

【第4回】12月13日 (火)

「ものづくりに活かすナノテクノロジー ~ウルトラファインバブルの化学」

(講師) 間瀬 暢之 (工学部化学バイオ工学科・教授)

(概要)

目に見えない大きさの泡をキーワードとして、有機化学における最新の研究成果を紹介し

ます。高圧を必要としない本技術は静岡県内企業との共同研究により発展しました。

静岡発のグリーンものづく技術を堪能していただくとともに、ファインバブルの実演を予

定していますので、
理科好きの皆さん、是非ご参加ください。

【第5回】1月17日（火）

「太陽光・排熱を電気へ変換 ～エネルギーハーベスト材料の開発～」

（講師）早川 泰弘（電子工学研究所・教授）

（概要）

クリーンな自然エネルギーへの注目が高まり、無尽蔵な太陽光エネルギーを利用する太陽電池や、発電の際に無駄に捨てられている排熱を有効利用する熱電デバイスの研究が盛んに行われています。

このようなエネルギーハーベスト（太陽光や照明光、機械の発する振動、熱などのエネルギーを

採取＝ハーベストし、電力を得る技術）の開発は、二酸化炭素排出量削減や持続可能な低炭素社会の

実現に不可欠であり、浜松でもその先端技術に関する研究が進められています。

太陽電池材料や熱電デバイス材料の開発について紹介します。

【問合せ】静岡大学イノベーション社会連携推進機構 地域連携生涯学習部門

TEL : 054-238-4817 （平日9:30～16:00）

メール：LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp

【主催】静岡大学、中日新聞東海本社

【詳細】<http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event002552.html>

《 みんなのコラム -98- 》

記：工学部 機械工学科 准教授 居波 渉

我々は、これまで見る事が出来なかったものを観察する光学顕微鏡について研究を行っています。私は、静岡大学の機械工学科の学部、修士課程を卒業し、静岡大学理工学研究科

の博士課程で学位を取得しました。

この間、一貫して、光学顕微鏡の開発を行ってきました。現在は、より高く細かいものを観察

できる顕微鏡を開発しています。

浜松地域には、多くの優れたものづくり企業があり、静岡大学にとって大変ありがたい状況です。

浜松ホトニクス社の光電子増倍管は、ニュートリノに質量があることを示す発見に対して贈られた

ノーベル賞に大きく貢献しています。光電子増倍管は、光を測るための究極の測定器の一つです。

我々は企業の方のニーズを知り、企業の方には我々の研究を知って頂き、産業界と大学との交流を

深めていくことは浜松地域を盛り上げるために非常に重要だと思います。我々の顕微鏡の開発には、

様々な企業の方にご協力を頂いています。また、開発している顕微鏡でこんなものが見えないか？

などご意見を頂いています。実際に、サンプルを頂き観察することもあります。観察に成

功したサンプルもありましたが、観察に失敗サンプルも多くありました。このような失敗の中から新たなアイデアを思いつき、さらに開発を進展させることができます。さらに顕微鏡を改良し、企業の皆様の要望に応えるものにしていきたいと思っています。

今後も、皆様とより一層連携を図り、より良い研究を行い、その結果を社会に還元していきたいと思っております。

<< 編集後記 >>

7月20日・21日の2日間、アクトシティ浜松 展示イベントホールで開催されました「第10回ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu2016」に出展しました。

今回の開催で10回目となる節目を迎えたこのフェアには県内外から256社(機関)の出展があり、浜松地域のビジネス拡大の場、全国に向けた情報発信の場として定着しています。

来場者と出展者の間で積極的に商談や情報交換が行われるなど、ビジネスチャンス獲得に向けたエネルギーとパワーを肌で感じました。

さらなる浜松地域、静岡県活性化に本学としてお役に立てる様に、これまで以上に地域に開かれた大学を目指し、積極的に企業との産学連携活動を実施していきたいと感じました。

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) までお願いします。(↑送付の際は[at]を@に変更してください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：宮下真紀子
発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1413
URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

Copyright (c) 2008-2016
Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved